

県PTA連合会 馬場 将嘉新会長インタビュー

教委との連携、最優先に



ばば・まさよし

伊万里中PTA会長、伊万里市連合PTA会長などを経て、6月より現職。本業は地元建設会社の3代目社長。1男2女の父で、家庭では「昭和の親父」を演じているという。「趣味はゴルフ」と話し、浅黒く日焼けした肌が日ごろの修練の成果を物語るよう。人との出会いを大切にしており、多彩な人とお酒を飲み交わしながら交流を深める。46歳。

佐賀県PTA連合会の定期総会で前任の江田明弘会長が退任し、新たに馬場将嘉会長(伊万里市)が就任する人事案が承認されました。PTAを巡る諸問題が顕在化する難しい状況の中、県PTAの舵取り役を担う馬場新会長に、今後の運営にかかる思いなどを聞きました。

(聞き手・川尻圭一郎)

より良い教育環境づくりへ

―馬場会長にとってPTAとは？

子供の学びや将来の幸せのために学校の先生方と協力し、地域の方々の支えと共に、よりよい教育環境をつくる場所だと考えています。伊万里中でPTA会長や市連Pの会長を務めさせていただき、計8年に渡りPTA活動に携わってきました。はじめは子を持つ親同士のつながりから、先生方や近隣の学校のPTAの方々と活動を重ね、たくさんの方との出会いがありました。PTA活動を通じて、子供たちの教育環境について意見交換や成功事例を共有しながら、私自身も人として、また親として学びを与えてもらっていると感じています。

―佐賀県PTA連合会の会長を引き受けた経緯は？

推薦です。声をかけてもらいました。当初は不安もありましたが、末っ子が中3というタイミングと、薦めていただいた期待に応えたいとの思いで、引き受けさせていただきました。それから、少しずつ勉強をはじめ、R6年度の基本方針を作る時には新会長としての自覚が芽生えていきました。

―会長として取り組みたい事はありますか？

まずは(PTAと教育委員会の)連携・協力推進事業です。R5年度は九P佐賀大会があり、連携・協力推進事業が進められておりませんでした。本事業は期日がR6年度となっているので、(安全互助会基金の)約1億円を財源とした寄付を本年度に実施しないといけません。市郡連PTAと教育委員会が子供たちに実のある事業が計画されますので、責任を

加入者の維持を目指して

数回を市郡連Pの地域で開催し、理事会の後に市郡連Pと意見交換ができる場を持ちたいと考えています。県Pと市郡連Pがお互いの現状をより深く知ること、県Pのさらなる発展に繋がることを期待しています。

―PTA加入者が減っていることはどう見えていますか？

子供たちの人口が減る中、時代の流れもあり仕方ないのかなと思います。ただ、加入者の維持に努めることはできると思います。これまでもPTAとして多くの活動実績があり、広報活動もして

負担を減らす交流イベントの実施です。未来ある子供たちの成長のためには、若い先生方の教育力が必要です。PTAとして若い先生方をサポートし、働きやすい環境を整える一助になればと考えています。

昭和の親父ですかね。子供たちに対して威厳は保てていると思いますよ(笑)。今、学校や地域において子供たちが「叱られる」という環境が減ってきています。私は、「叱られる」という経験をせずに大人になることに不安を感じているので、私の家では私が「叱る」ことを担っています。子供たちに「叱られる」という経験から、自分で考える力や強い心を養って欲しいと考えています。

―家庭ではどんな父ですか？

きたので、その流れを継続し、真摯に子供の為を思い、実のある事業や活動を継続し続けることが加入者の維持に繋がると考えます。

佐賀市で県P定期総会



事業計画案、予算案などを承認

令和6年度佐賀県PTA連合会定期総会が6月1日、佐賀市のメイトプラザ佐賀で開かれました。県内単Pの会長や校長など代議員が出席し、新会長に馬場将嘉さん(伊万里市)を選出する役員人事や「子供たちのための働き方改革決議」など5議案を可決しました。

総会では新会長に馬場さん、副会長に長友篤志さん(鹿島市)、池田智博さん(武雄市)、本吉佳子さん(唐津地区)、末永麻梨子さん(母親・鳥栖地区)、真子真波さん(校長会)を選ばうなど、新体制が決ま

りました。新役員の紹介では馬場会長が「承認ありがとうございます。力不足、経験不足ではあるかも知れませんが、精一杯佐賀県PTA連合会、各市町の単Pのために尽力していきたいと思っております」とあいさつしました。また県PTA表彰が行われ、8団体30個人に表彰状などが贈られたほか、きらりと輝く九州人大賞、特別表彰(中富賞)、PTA新聞コンクールなどの表彰も行われ、受賞者は壇上で笑顔を見せました。

(瀬戸健太郎)



発行所
佐賀市南佐賀3-11-15
佐賀県立佐賀東高等学校内
佐賀県PTA連合会
☎0952(26)2276

発行責任者
会長 馬場 将嘉

佐賀県PTA連合会ホームページ
<http://www.saga-pta.jp/>



36年の信頼と実績 県内に7教室!

お父さんお母さんも、お兄ちゃんお姉ちゃんも、そしてあの先輩も!みんな丸田塾でがんばった!



夏の勉強場所に、丸田塾を選んでみませんか?



13名全員が教職現場での経験豊富な正社員講師です

小・中・高 目標に応じた各コース
全教科指導 部活や習い事との両立もできます
英検・漢検・数検 の受験もできます
オンライン英会話

2024年 合格実績

県立高 ... 109名
致远館中 ... 28名
九州大、大阪府立大
佐賀大 他

お問合せは
電話または
ホームページから



令和6年度 PTA 基本方針・努力目標

スローガン「親が親になるために、先生が先生になるために」

「親が親になるために、先生が先生になるために」。親と先生が協働を図りながら、それぞれの適切な役割を果たしていくことが、未来への扉を開いていくことにつながると信じて活動してまいります。

昨年開催した「日本PTA九州ブロック研究大会佐賀大会」は、PTAの課題や可能性に改めて気付かされた大会となりました。PTAは保護者と教師が共に学ぶ場というのが本質です。学びと経験を地域に生かすことで、未来に向けた社会づくりの一助になります。

子供たちの心身を健全に育成するための環境は厳しさを増しています。佐賀県PTA連合会は関係機関や地域との連携をさらに深め、諸問題の解決の糸口を見つけていく事業を開催していきます。併せて各市郡連と各自治体(市町教育委員会等)との包括連携協定をこれからも力強く推進していきます。子供たちのための働き方改革決議についても責任をもって進めています。

教育の根底にあるのはあくまで家庭であり、子供に基本的な生活習慣や倫理観、道徳観などを身につけさせる上で重要な役割を果たしています。家庭教育を基本とし、学校教育で豊かな個性や社会性を学ぶことが本来あるべき姿ではないでしょうか。

「親が親になるために、先生が先生になるために」。親と先生が協働を図りながら、それぞれの適切な役割を果たしていくことが、未来への扉を開いていくことにつながると信じて活動してまいります。

基本方針(要約)

【日本PTA全国協議会綱領】

公益社団法人日本PTA全国協議会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、わが国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭・学校・地域の連携を深め、子供たちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

努力目標

① 組織・運営

会員の意識と連帯感の向上を図る。

② PTA活動の充実と活性化

県内PTAの交流を深め、必要な研究活動や情報発信を行い、市郡連PTAの支援に努める。

③ 家庭・地域との連携と地域活動の活性化

教育の原点は家庭にあることを再認識し、学校・家庭・地域社会がそれぞれ適切な役割を分担し、相互の理解・連携に努める。

④ 家庭と学校の連携強化

家庭や学校、教職員がその役割に応じて本来の職務を全うできるよう家庭教育の質の向上を推進する。

⑤ 情報・資料提供の推進

PTA活動に関し、会員の学習と共通理解を深める。県PTA新聞をはじめ地元紙での情報発信およびホームページの充実を図る。

⑥ 会員や児童生徒の安心感を確保する取り組み

単位PTA活動を円滑かつ安全に行うためにPTA安全互助会事業を行う。また、小中学校総合保障制度加入を推奨する。

⑦ 講演会の実施

全会員のための事業を実施し、親として、先生としての成長を促すきっかけをつくる。

令和6年度 役員・理事

役員

会長

馬場 将嘉
(伊万里市)

副会長

長友 篤志
(鹿島市)

副会長

池田 智博
(武雄市)

副会長

本吉 佳子
(唐津地区)副会長
(母親代表)末永麻梨子
(鳥栖地区)副会長
(校長会代表)真子 真波
(牛津小)

理事

【鳥栖地区】

大石 友和
(基里中)

【三養基郡】

最所 正和
(北茂安中)

【神埼地区】

森田 渡
(脊振育友会)

【佐賀市】

荒木 健
(城西中)

【小城市】

田中 大蔵
(小城中)

【多久市】

吉村 亮
(東原岸舎東部校)

【西松浦郡】

長 浩司
(有田中)

【杵島郡】

田中喜久雄
(江北小)

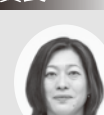
【鹿島市】

鶴 健太
(古枝小)

【嬉野藤津】

西山 嘉克
(吉田小中)

母親副委員長

馬場 亜衣
(千代田東部小)橋本 裕子
(高峰中)

新聞編集委員長

瀬戸健太郎
(鳥栖小)

事務局

総括 長谷川義高

事務 坂井 範子 宇井 幸子

県PTA新聞コンクール
最優秀校

小学校の部 中原小PTA

「なかばる」



中学校の部 城東中PTA

「さんわ新聞」

SouMa(そうま)
立体切り絵作家
デザイナー

鳥根県松江市生まれ、在住。
幼少の頃から独学で切り絵
を始める。下絵や設計図を組
むことなく、一枚の繋がった紙から唯一無二の
独創的な作品を生み出す。



主催:佐賀新聞社

問い合わせ 佐賀新聞プランニング 電話 0952-28-2151 (平日9:30~17:30)

これが切り絵!?

佐賀新聞創刊140周年記念 立体切り絵

SouMaの世界展

会場でキャンペーン実施中!

お気に入りの作品をX(旧Twitter)に投稿して
佐賀牛など県産品を当てよう!

展示作品(撮影可能な作品のみ)の中から、お気に入りの作品を撮影しX(旧Twitter)に投稿しよう!抽選で5名に佐賀牛すき焼きなど県産品をプレゼントします。当選者には、展覧会公式X(@saganewsp_art)からDMで連絡します。

詳細は特設サイトもしくは会場内の案内をご覧ください。

応募期間 7月4日(木)~7月31日(水)

賞品 佐賀牛すき焼きなど県産品

投稿には
#そうま展佐賀
を付けて投稿
してください8/4(日)まで
佐賀県立美術館写真・動画撮影・SNS投稿OK
(一部の作品を除く)開館時間 9:30 ~ 18:00 (17:30 最終入場)
休館日 7/8(月)、16(火)、22(月)、29(月)

高校生以下 入場無料

Ticket (当日)	
一般	1,000円
ペア	1,800円

※当日券は展覧会場ほか各プレイガイドで販売
※ペア券は二人同時入場
※高校生以下は無料
※小学生以下は保護者同伴で入場
※障害者手帳又は特定医療費(指定難病)受給者証の所持者は無料(介助者は有料)
※佐賀新聞Begin会員、佐賀県立博物館美術館メール会員は前売り価格

市郡連会長に聞く

県内に13ある市・郡・地区PTAの会長を順番に紹介します。それぞれの地区の自慢や課題、今後の展望について語ってもらいます。

第21回

鳥栖地区 大石 友和 会長



おおいし・ともかず

福岡市でIT会社を経営し、スマホアプリ、ウェブアプリの開発、サイト制作、AI開発など多彩な事業に取り組むほか、鳥栖市の教育委員も務めている。「妻のことが大好き」と公言し、子供そっこので「2人でデートするのが癒やされる時間」と笑う。出身単Pは基里中。47歳。

視野広げるきっかけに

◆PTAに関わったきっかけと入った後の感想は？

単身赴任をしていたことがあり、その時は子育てを妻に任せきりでした。そのため鳥栖に戻った後は、PTAや子供クラブなどを自分が担当することで妻の負担を減らそうと思いました。そんな時に知り合いから声を掛けられ、単Pの副会長を引き受けましたが、関わってみると想像以上に大変で、当時の会長さんと相談しながら負担を減らす方を考えました。

◆鳥栖地区Pのいいところを教えてください。

コロナ禍をきっかけにPTA活動の見直しが進められていますが、地区Pは執行部をはじめメンバーに恵まれており、大変助けてもらっています。伝統行事の「はは!!おや!?オリンピック」などに積極的に関わってくれる会員さんも多く、先生方との連携も比較的うまくいっていると思います。

◆鳥栖地区Pの課題はありますか？

基山町の3小中学校が地区Pや県Pから脱退したことや、一部単Pの加入問題などさまざまな課題が浮かび上がってきています。これまでグレーだった問題が表に出てきた感じですが、ピンチをチャンスと捉え、これを機会にPTAの存在意義を改めて示していけたらと思っています。

◆次世代の役員さんなどへアドバイスを。

教育の基本は家庭にあると思います。共働きなどで忙しいとは思いますが、親として手を取り合って子育てに取り組むことが大切です。そのきっかけにPTA活動を使っていれば、教育を学校に丸投げするのではなく、保護者として何ができるのかを考え、視野を広げる機会にしてほしいです。

(聞き手・瀬戸健太郎)

タブレット活用してる？

全国の児童・生徒に1人1台の端末と高速ネットワークを整備する文部科学省のGIGAスクール構想。新型コロナウイルス感染症の拡大もあったことで整備は急速に進み、佐賀県内の児童・生徒にもタブレット端末が行き渡っています。タブレットが教育現場でどのように活用されているのか、佐賀県教育委員会などに話を聞きました。

今後のさらなる活用に期待



タブレット端末の画面

県教委によりますと、コロナ禍で導入が進んだタブレット端末は現在、県内の全小・中学校の児童・生徒に1人1台ずつ準備され、インターネットに接続できる環境も全ての学校で整っているそうです。県教委は「子どもたちが自由に使える環境を整え、日常的に使ってほしい」と話しています。環境面は整ってきましたが、活用策についてはまだ

まだ発展段階で「市町間でばらつきがある」といいます。それぞれの市町でのルールや活用状況については、担当者が月に1回集まり、情報交換する場が持たれています。

また県内ではICT分野のスーパーティーチャーが3人認定されており、授業見学や研修会が定期的に開催されています。佐賀県のICT教育活用サイト「SAGA Eコネクト」では、タブレットなどICTを活用した授業の様子を視聴でき、先生たちが授業の参考

にしているといえます。タブレット端末が導入され5年が経過し、今年度より端末の入れ替えが開始されます。AIの導入なども含め、これからも教育現場でのICT化は加速しそうです。

(石井万里)

学校、家庭で活用中

学校現場でタブレット端末がどのように使われているのか。保護者では見えにくいメリット、デメリットについて、千代田東部小(神埼市)の教育情報推進リーダー・細木秋裕教諭に話を聞きました。

教育情報推進リーダーは学校現場の情報化の推進役で、各学校に1人います。先生の中から選ばれることが多く、県や市町の研修を受け、その内容を学校に反映します。

タブレット端末のメリットとしてまず挙げられるのは、児童・生徒個々の力に合わせて学習できることです。電子黒板を使った授業では、クラス全員の意見をすぐに共有でき、意見交換にも使えます。長期休暇中には学習の状況を家庭や学校で把握することができ、データとしても残すことができます。

一方で、デメリットとしては、



自宅でタブレット学習に取り組む児童

通信環境などの設定が難しいことや情報モラル指導が必要など、また故障や破損した場合、家庭に負担が発生するケースもあります。千代田東部小ではまだそのような事例はないということです。

保護者からは「使用時間を学校で管理してほしい」との声が聞かれます。課題もありますが、学校、保護者、子どもで話し合いながら、学習に役立てていくことが重要となります。(嬉野真紀子)

さが
プログラミング
アワード 2024
特別協賛 学映システム

さがプログラミングアワード2024

さがプログラミングアワードとは、佐賀県内の小学生を対象にした小学生のプログラミング大会です。低学年と高学年の2部門でプログラミング作品のアイデアや完成度を競います。

本選日程 2024年12月22日(日)

会場 メートプラザ佐賀(佐賀市兵庫北3-8-40)

応募期間 2024年9/16(月・祝)~10/3(木)

テーマ

- 低学年(1~3年生) 「みらいの“あったらいいな”」
 - 高学年(4~6年生) 「わたしが作る、未来の世界」
- ※チームに高学年と低学年が入っている場合は高学年の部門とする

対象者

佐賀県内在住または在学の小学生
※個人または4人までのチーム

募集内容

テーマにそって制作したオリジナルのプログラミング作品
(ジャンルやプログラミング言語は自由。他コンテストで入賞した作品は不可)

応募方法

特設サイトの応募専用フォームに必要事項を記入して申し込む

応募・詳細はこちら!



[特設サイト]



[公式X]

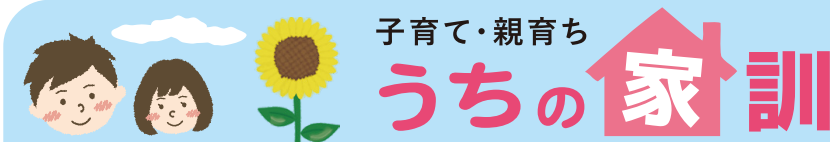
特別協賛: 学映システム Gakuei System

主催: 佐賀新聞社

共催: 特定非営利活動法人公共デザインイニシアティブ

本大会は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)の共通目的基金の助成を受け実施されています。





子育てのヒントになるような、それぞれの「家訓」を紹介します。



北島家の家訓

会話で伝える大切なこと

北島靖子(三田川中P)

私たち家族にとって、大切に行っていることは会話です。学校のこと、友達のこと、今夢中になっていること、楽しかったこと、悔しかったことなど内容は様々ですが、とにかくよく家族で話をします。私たち夫婦は、小さいころから両親をはじめとした家族との会話の中で、生きていくために大切なことをたくさん教えてもらったと感じています。そのため、4人の子供たちにも同じように話をすることで私たちが経験し、大切に思うことを伝えていきたいと思っています。子供たちとともに笑い、共感し、時には真剣にぶつかりながら自分の思いを話しています。成長していく中で、いつか自分たちの経験に生かしてくれたら嬉しいです。

大曲家の家訓

「ありがとう」で笑顔に

大曲 称奈(曲川小P)

我が家は共働きで2人の息子がいます。夫が夜勤もあるため、さまざまな生活パターンがあります。私も子供のころは両親が共働きでしたので、妹と洗濯物の取り込み、夕食の米の仕込みなど当たり前のようにしていた気がします。学童クラブなんてなかった時代、学校から帰ると外へ遊びに行き、家のことをして親の帰りを待っていました。そして今でも心に残っているのが、仕事から帰ってきた母が「うわー助かった。ありがとう」と喜んでくれる笑顔です。今、母となった私の夫と子供たちはできる事をできる時にやってくれます。私も「ありがとう。いつも助かる」と伝えると、息子はとても嬉しそうに笑います。大切にしている我が家の日常です。

父親日記

佐賀新聞社の記者がつづる 教育や子育てをテーマにしたコラムです

vol.16 娘日記

夜8時ぐらになると、スマホに「〇〇日記」のタイトルでメールが届く。〇〇には小6の娘の名前が入り、自宅のiPadから送られる。単身赴任の初日に「忘れてなかったら毎日書くからね」と始まり、ほぼ毎日のように届く。きょうは誰と遊んだとか、授業で男の子たちが騒がしくて怒られたとか、日々の出来事をつづっている。うれしいことは冗舌で、たまに絵が添えられていたり、ピンクの文字で書かれていたりして感情も伝わる。

離れて暮らすと、日常生活の中に「子育て」があるという至極当然なことに思いが至る。そばにいるから親らしいことができた。うちは一人娘で、これまでも母親と過ごす時間が長かった。父親との時間は減るばかり。だから、ささいなことでも「きょうの娘」が分かるのはありがたく、何より楽しみにしている。心の内を伝えて、お母さんには内緒だよと記してあった日はうれしくもあった。

「たまにでいいからお父さん日記とか、日記の感想とか書いてね。始まった時にはそうあったが、いまや返信を失念すると忘れてるよ」と催促が来る。次の日も日記が読めるように、仕事以上に素早い返信を心がけている。

(佐賀新聞社 宮崎 勝)

西川登小中学校は武雄市にある自然に囲まれた学校です。全校児童は56人と少ないですが、学年に関係なくみんな仲が良く、優しい子供たちがばかりです。地域の人のちとの距離も近く、たくさん愛情を頂ながら過ごしています。今回は伝統行事の相撲大会を紹介したいと思います。小学校の隣には、みんなで大切に守ってきた小学校所有の興亜山という小さな山があります。興亜山には相撲場があり、昔から年に1回、相撲大会が行われてきました。

コロナ禍の影響で今回は4年ぶりの開催です。参加した子供たちは相撲に対して何だか照れくさいような気持ちもあったようですが、それを感じさせない対戦がありました。「はっけよおい、のこった!」の掛け声で始まった取り組みは、どちらも一歩も譲らない展開になりました。1分:2分

伝統の相撲大会、白熱の対戦

西川登小育友会副会長 前田 絵里子

合計5分半、一歩も譲らず頑張る2人に感動し、応援の観客からも涙が溢れました。地域のみならずからの応援も温かく、西川登で子育てできて幸せだなと感じました。このような行事を大切に守っていききたいと思った一日でした。

経過。一方の選手が土俵際ギリギリまで攻め込みますが、相手の選手も粘ります。3分経過しても勝負が決まりませんでした。気持ち新たに直しとなり、2度目の対戦も2分半の白熱した戦いになりました。

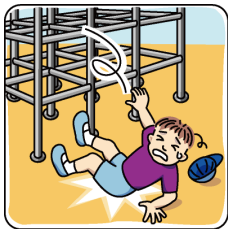


佐賀県PTA連合会推薦 小・中学生総合保障制度(こども総合保険)について

お子様の「ケガ」「育英費用」やお子様とご家族の「個人賠償責任」などに備えられます。

学校内はもちろん、放課後の遊戯中・クラブ活動中や休日のレジャー中の事故など様々なケガに備えられます。

他人にケガを負わせたり、他人のものを壊したりして法律上の損害賠償責任が生じた場合に備えられます。



オンラインから、パンフレットの確認やご加入のお手続きができます。

スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み込むか、下記URLにアクセスしてください。
<https://www-515.aig.co.jp/adver?sd=tvmgygin-24>



※保険商品の概要を説明したものです。詳細につきましては取扱代理店にお問い合わせください。

○制度に関するお問い合わせ先: 0120-228-553 佐賀県PTA連合会保障制度事務局(取扱代理店:株式会社コーリン) 受付時間: 平日午前9時~午後5時(土・日・祝日、年末年始を除く。)

○制度引受保険会社: AIG損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社 Chubb損害保険株式会社

【令和6年度版: S-240586 (2025-03)】